



廿日市市 地域支援員だより

2024 春号



地域支援員とは

地域情報を発信したり、一緒に地域おこし活動をしたり、地域内外の交流をはかったりしながら、地域の力を強くするために廿日市市の職員として1年単位で任用された人のこと。

任期は最長で3年間。その限られた時間の中で、何をやっているのか、廿日市でどんな動きがあるのかを知ってもらいたくて、この冊子を作りました。年に4回、お届けします。

佐伯高校

「姉妹校との関わり」

先日、佐伯高校の姉妹校である台湾桃園市立観音高級中学（観音高校）の皆さんが来校しました。佐伯高校生は廿日市市が発祥の地であるけん玉を披露し、観音高校の代表の生徒にも体験していただきました。代表の生徒は初めてけん玉を触ったようですが、すぐにコツをつかんで上手に扱っていました！

「公営塾」

この度、英検対策集中講座を実施しました。佐伯高校は小規模校なので、ひとりひとりに合わせて指導を行うことが出来ています。目標を設定して達成する経験は、必ず今後の力になると思うから、みんな継続して頑張ってください！



旅する教室



英検対策 集中講座



タブレットなどを使って
コミュニケーション



けん玉にチャレンジ

「友和地区にて空き家お助け

「パートナー養成講座を実施」

廿日市市住宅政策課主催の「空き家お助けパートナー養成講座」が友和地区にて全4回の日程を終了しました。運営側の一員として参加しながら、自身も初めて受講生として講座に臨み、様々な学びを得ることができました。参加者の皆さんは、空き家に関する講義に熱心に耳を傾け、グループワークでは積極的に意見交換を繰り返していただきました。空き家を自分事として捉え、解決に向けた意欲が伝わってくる熱気あふれる講座となりました。



住宅政策課から説明



空き家お助けパートナー修了証

私自身、祖母が施設に入居したことで空き家となった実家の管理をしており、先日も庭の手入れや清掃を行いました。実際に管理してみると、その大変さを痛感しました。空き家となる理由は家庭ごとに異なり、今後も空き家の増加は見込まれ、空き家対策の必要性が高まることが予想されます。空き家に限らず、住まいについてお困りの事がありましたら、一人ひとりで悩まずに私を含め市へご相談ください。すぐに解決できるものではありませんが、少しでも気持ちが楽になったり、解決の糸口が見つかるかもしれません。

(定住推進担当 田崎)

News&Information

「ドローン講習受講」

この度、定住推進担当の田崎と佐伯高校魅力化担当の稲田は、無人航空機操縦士ベーシック・アドバンスコースを受講しました。廿日市市時にある権現ハウスにて、元地域支援員の中井さんの指導のもとドローンの操縦技術と航空法の基礎知識を習得しました。実技講習では実際にドローンを操縦し、その難しさと楽しさを体感していただきます。

指導員の中井さんは、地域支援員任期後にインストラクター資格を取得されています。任期中の活動や任期後の相談にも乗ってほしい、頼もしい存在です。

私たちの今後の活動としては、ドローンの資格を活用し高校の行事や部活動の練習、地域イベントなどを空から撮影することで、臨場感あふれる写真で高校や地域の魅力をどんどん発信していきたいと考えています。

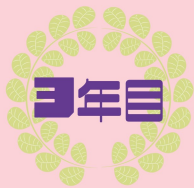
また、令和7年12月以降はドローンに関する免許制が国家資格で一本化される予定です。今回の民間資格取得を足掛かりに今後は国家資格取得を目指し、さらには知識と技術を向上させていきたいです。

(佐伯高校魅力化担当 稲田)
(定住推進担当 田崎)



編集後記

この春、任期を終えて3名の地域支援員が卒業。在任中はコロナ禍ということもあり難しい時期もあったと思いますが、それに挫けず活動を継続されました。今号はそんな3名のこれまでの活動を振り返ります。卒業後はそれぞれが新たな道を歩むこととなりますが、地域支援員でなくても佐伯吉和地域のサポーターであることは変わりません。3名の今後の活躍を心からお祈りしています。3年間お疲れさまでした！ (田崎 裕司)

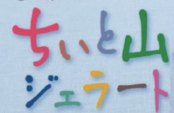


意願の大豊作&PR活動

先進地で学んだことと地域の方の知恵も合わせながら栽培方法を見直し、自身も研究・調査を欠かさず行いました。その結果大豊作に恵まれ、中国新聞やFMIはつかいち等のメディアへの出演、産直やスーパーでの販売に加えて、キューピーさまと連携したレシピ制作、料理教室やジェラート制作まで充実した活動が行えました。

玖島
浅原

Loop X さいき・はつかいち



農業



あさはらビジョンの冊子を地域で作成しました！
読み込むと電子版冊子が開きます！

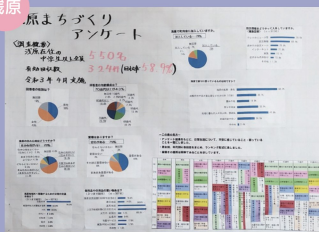


3月31日に農業持続化担当、玖島地区活性化担当、浅原地区活性化担当の地域支援員3人が卒業しました。そんな3人の3年間の活動をまとめました！



浅原

浅原



浅原まちづくりアンケートの集計

コロナ禍の中、浅原連合町内会や浅原の未来を創る会が実施した『浅原まちづくりアンケート』の集計を行いました。これが、誰もが安心して暮らし続けられる浅原を実現させるため、2023年6月に完成した『あさはらビジョン』の基になっています。この集計により、浅原のことを客観的に分析することができ、浅原の皆さんの思いも感じることができました。

農業



マコモタケとの出会い

“水田を水田として使う”ことを目標に耕作放棄地や遊休農地削減に向けて活動しました。活動の中でマコモタケの存在を知り、稲と同じように水田栽培できる部分に魅力を感じたため、試験栽培計画を立てました。

玖島



任用1年目 玖島の中を歩いてみました

玖島のことを全く知らなかった1年目。まず玖島ウォークに参加。その自然に心身が浄化される気がしました！その後、「まず1軒1軒まわってみたいから？」というコミュニティの方の言葉に従い、全戸とはいきませんでした。訪問したのもいい思い出です。おかげで大きな地理やどんな人が住んでいるのかを感じることができました。

ちいと山ジェラート発売

宮島口のジェラートショップ「Loop」さんのお力を借りて、浅原・玖島の地域支援員で佐伯の特産品を使ったジェラートセット「ちいと山ジェラート」を企画・発売しました。

玖島

玖島の里



共に創る、玖島の未来

ホームページリニューアル

1年目に開設したホームページをリニューアルして公開しました。玖島の自然や歴史、地区全体の動きをよりシンプルにお伝えできるようになったのでは。何れともあれ、「玖島」と検索したら出てくるようになりました！



読み込むと玖島のホームページが開きます！

浅原



「あんきな会」スタート！

支援員として活動する中で、認知症カフェのようなものが浅原には無いということに気が付きました。そこで地域の方と協力して始めたのが『あんきな会』という講座です。『安気』とは気楽にという意味があります。佐伯の方言でよく使うように気軽にふらっと話してほしいという願いを込めています。月に1回開催し、20人くらい地域の皆さんが集まってくれています。



玖島



玖島の里づくり拠点施設オープン！

統合され閉校になった旧玖島小学校を活用した交流拠点施設「玖島花咲く館」がオープン！ここに至るまでいろいろなことがありましたが、みんなでなんとかオープンまでこぎつけることができました。その後は、カフェ、マルシェや加工所の運営をお手伝いさせていただきました。スタッフやお客様とのやりとりがとても楽しかったです。

浅原

あさはらビジョン作成ワークショップ始まる

『浅原まちづくりアンケート』の調査結果を基に、浅原でビジョンづくりワークショップを全3回行いました。ワークショップの回数を重ねる毎に、参加者である地域の皆さんの顔つきが、浅原の将来を自分事として捉えることにより、変わっていくことに驚きました。私も、学生時代に学んだファシリテーションの経験が役立ち、嬉しいと思いました。



地域支援員のホームページもみんなで作成しました！

読み込むと地域支援員ホームページが開きます！



玖島



農業

試験栽培スタート

「県道沿いの農地をなんとかできないか。」という相談を受け、地域の方や各関係機関と協力し、県道沿いの遊休農地5反分を水田に再生しました。その中の2反分をマコモタケ試験栽培農地として栽培開始しました。しかし、収穫時期になってもマコモタケは1割程度しか収穫できませんでした。そのため、先進地へ視察を得て、先進技術の導入を行いました。



浅原地区活性化担当 西本からひとこと

3年間浅原で活動していると、地域の皆さんのやさしさにいつも助けられてきました。だからこそ、少しでも恩返しできればなと思いながら、いろいろなことにチャレンジすることができました。浅原地区の人口はここ3年で約50人減少していますが、地域でたくさんの人と出会って、一緒に活動してみると、地域で活動されている方がたくさんおられることに気が付けました。だからこそ、地域支援員として任期が切れる4月から浅原に携わる仕事をしたいと思いました。

令和6年4月1日から、特定非営利活動法人NPOあさはらによるあさはらまちづくり交流センター（中央活性化センター・交流会館・交流広場・交流ホール）の指定管理が始まり、私もNPOあさはらの職員として勤務しています。勤務地は相変わらず浅原です。地域支援員としての経験を最大限生かしながら、地域の人との対話を重視し、新たな事業へチャレンジできればと思っています。ぜひ見かけたときには声をかけてください。今後ともよろしくお祈りします！



農業持続化担当 中山からひとこと

私は廿日市市の地域支援員として、3年間遊休農地や耕作放棄地の有効活用を目指し、特にマコモタケの栽培に注力しました。私が特に目標にした点は“水田の有効活用”でした。耕作放棄地になる理由の一つに水はけの悪さがあり、転換するよりも水田利用をした方がいい土地もあります。そのような土地の利活用として、マコモタケの試験栽培を行いました。この3年間は本当に多くの方にお世話になりました。共にマコモタケ栽培に協力していただいた農業委員会の方々をはじめ、活動を陰から支えてくれた地域の方々、各関係機関の方々、そして同地域支援員の方々には大変お世話になりました。皆様のご協力が無ければここまで充実した活動は行えなかったと思います。地域支援員は卒業しますが、今後も地域の方々との関わりを継続し、新しい地域支援員とも協力しながら活動していきたいです。短い間でしたが本当にありがとうございました。



玖島地区活性化担当 義志からひとこと

時はまだコロナ収束には至っておらず、従来されていたコミュニティ活動もできていない状況の中で、玖島のことなど何も知らずに支援員に応募し、幸いにも任用されました。振り返ると、長かったような短かったような3年間でした。この3年でとにかくやろうと考えたのは2つ。1つは、外に向かって情報発信していくこと。もう1つは、既に改修が決まっていた旧玖島小学校を活用し関係人口を増やそうということでした。住んでいらっしゃる方にとっては当たり前のことが、外から見るととても魅力的ということが玖島にはたくさんあり、今後もっと多くの方にその魅力を知ってもらえたらいいなと思っています。任期中は、いろいろなことにチャレンジ学ぶ機会を与えて頂きました。これも玖島をはじめ佐伯地域の皆様、市役所の皆様が助けてくださったおかげです。本当にありがとうございました。支援員ではなくりますが、これからも玖島のみならず佐伯地域を応援したいと思います。

広島工業大学女子学生 キャリアデザインセンターの マスコットキャラクターの キャロミちゃん。 玖島にも何度か来てくれました♪



玖島の農産物を使った料理教室開催

玖島は農業が盛ん。マコモタケ、ほうれん草、白菜、ネギなど地元で採れた野菜を使って、普通に家庭で作るとは少し違った料理を紹介しました。玖島地区外からもたくさんの方にご参加いただき、玖島を訪れるきっかけになっていただいていると思います。